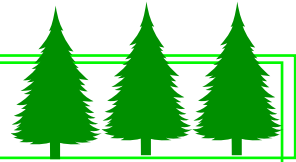




みつぎ便り



第158号 11月号 令和元年11月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所みどり公園課の花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ハキダメギク（掃溜菊）

崖の下の柵で囲われた湧き水の水路の側の小さな空き地に、近くに座り込んで意識して凝視して見ないと見過ごしてしまうほどの小さな花が群れて咲いています。

内側が黄色の筒状で、先端が三つに別れた白い五つの花弁をつけた直径五ミリ程の小さな花でアメリカ原産の帰化植物の一つです。

牧野富太郎が東京の世田谷のはきだめで見つけ「ハキダメギク」と命名、採取された場所が悪かったですね。

キク科の植物の大半は食用になるようですが、食べた人の話では美味くはないそうです。（安）

ヒナタイノコズチ（日向猪子槌）

イノコズチは、ヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチ、ヤナギイノコズチと主に三種類が良く見られますが、この公園で見られるのは、ヒナタとヒカゲの二種類です。

秋になると学校帰りの道端で、友達とお互いに、このイノコズチの種の一部を茎ごと折って、毛糸のセーターなどに、種を擦り付けて遊んでいた姿を思い出します。そのとき、たくさんの種がくっつき、それを取るのに苦労した記憶もあります。

夏には白い数ミリの花が咲きますが小さく目立ちません。秋になると茎に並ぶように、三ミリほどの小さな種をつ



け、多年草なので毎年見ることが出来ます。

ヒナタイノコズチは名のとおり、陽の良く当たる場所に、ヒカゲイノコズチは比較的、日陰のある場所に育つようです。

集会所の通路のスロープ辺りに良く見られます。それ以外の場所でも見ることが出来ますので探してみてください。（圭）